

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0175700426), 法人名 (有限会社 介護ケア道央), 事業所名 (グループホーム めくもり 1階), 所在地 (〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上293番地1), 自己評価作成日 (平成28年6月20日), 評価結果市町村受理日 (平成28年7月29日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ありのままに ゆとりとめくもりのある暮らし」の理念のもとに、家庭的な雰囲気の中で、ご本人のペースに合わせた支援をおこなっています。出来る事に着目し、日々の小さな達成感を持って生活が出来るように、ご本人の意欲を引き出し、感謝の気持ちを伝え合う事で、職員とのコミュニケーションを深めています。一人ひとりが地域の一員だと思えるように色々な行事への参加や、広い敷地を活用し畑作業や外散歩、外出や外食などを多く取り入れ、体力作りや気分転換のために色々な活動をおこなっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou detail 2015 022 kihon=true&JigyosyoCd=0175700426-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成28年7月13日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、運営者が生まれ育った栗沢町に恩返しをしたいと開設して11年が経過している。敷地内には最初に開設した事業所があり、災害時や研修、日常業務で連携が構築されている。運営者が地元出身ということもあり、開設以来地域の方々からは運営推進会議や避難訓練、事業所行事へ参加を頂くなど、理解と支援がある。裁縫の得意な利用者は小学校へ雑巾を贈呈するなど、各利用者の得意分野を引き出す工夫に取り組んでいる。家族からも家族アンケート実施時には感謝の言葉が綴られ、また、意見には迅速な解決策が検討されており、良好な関係を築いている。職員は、出来ない事への支援を基本姿勢とする事業所の方針を理解し、利用者にはゆったりとした環境の中でずっと笑顔の生活を送って頂きたいとケアの充実に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、ぬくもりでのサービスを通して地域作りを理念に掲げています。理念への研修などをおこない、各自の介護理念を発表する場をもうけるなど、日常の支援に生かす努力をしています。	法人理念を共有し、さらに事業所理念、個別の職員理念を策定し、ケアサービスで実践に努めている。日常業務や研修等で理念の掘り下げや実践の確認が行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の一人として色々な行事に参加しています。セラピー犬やボランティアの来訪・近所の公園で園児との交流・小学校への雑巾の寄贈など、地域へ根付く取り組みをおこなっています。	地域の方々とは、事業所行事、神社祭、保育園や小学校の運動会見学、コンサート鑑賞、ボランティア受け入れ等で交流を深めており、事業所への理解に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ほとんどの職員が認知症サポーターを受講し、随時見学会や、認知症を抱えている家族の方からの相談を受けるなど、いつでも対応出来る体制を整えています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年に6回開催しています。議事録は職員に回覧し、ご家族にも閲覧できるようにしています。また、色々な行事に合わせて推進会議をおこない、ご家族に参加の声掛けをおこなっています。	運営推進会議は、地域、利用者、家族、行政の方々の参加の下、定期的に開催している。事業所の現況報告後に情報や意見交換が行われ運営に生かしている。メンバーからの提案により玄関先に背もたれの椅子を設置している。	家族の参加が固定化されているので、全家族に議事録の内容周知(事業所便りに記載や議事録送付等)や継続的な呼び掛けにより、会議への理解や参加に繋がる取り組みに期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などに参加していただく事で、より内容のある会議となり協力体制が築けている。制度やケアの方法などでの適切な情報やアドバイスをいただき、感染症などの注意喚起情報などもFAXで受け取り活用している。	事業所行事(祭り等)には、行政の出席を得ている。事故報告書等の提出時や相談事は、施設長と介護支援専門員が担当窓口に出向き詳細を伝え、ケアの質向上や運営の充実に向けての情報や意見を頂いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年外部の研修に参加し、自施設内研修で定期的に振り返りをおこなっています。身体拘束や言葉による抑制が無いかなどを常に職員同士で話し合いながら、その人らしい生活が出来るようにケアをおこなっています。	身体拘束をしないケアに向けて、外部研修や研修後の報告会等で職員の理解に繋げている。職員間に於いても、玄関の施錠等も含め利用者の自由な暮らしの実現に向けケアの確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修には常に参加し、その都度勉強会や資料の回覧をおこなっています。日々不適切なケアが無いかを話し合い、周知徹底しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などに参加し、制度について学習する機会をもうけています。現在、日常生活自立支援を利用している方が1名います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、理解が得られるように説明・確認をおこなっています。改定時にご家族に説明し同意書の提出などもしていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や電話などで意見・要望などをうかがうようにしています。意見表現の活性のために、家族に無記名にてアンケートなどもおこない、サービスの向上に努めています。	利用者や家族とは、関わりの中で常にコミュニケーションをとり意見や要望の把握に努めている。利用者からの外出や食事等の要望には極力応える態勢があり、家族アンケート等で出された意見にも迅速に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや、職員の日常的な気付きなどその都度聞き入れ業務に反映しています。施設長との個人面談の機会を設け、労働環境や処遇の改善に努めています。	運営者や施設長は、機会あるごとに事業所を訪れ職員の全体像を捉えている。職員の意見や提案は、ケアの充実や就業環境の整備に生かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法によって労働条件を整えています。サービス残業ゼロを目指し、日々の声掛けや仕事内容等を検討しています。資格取得なども、向上心を持って働けるように支援をおこなっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の色々な研修に参加出来るように配慮し、研修内容を報告する場を設け全職員が学べるようにしています。毎月介護情報誌などを購入し、職員で閲覧できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に加入し、研修会や懇親会に参加している。当事業所3グループホームでの情報交換などもおこないながら、サービスの向上に励んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	事前に、ご本人やご家族から情報を得たり、不安な事や要望などについてうかがい、安心できる信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族とご本人との状況・不安や要望などを聞き、事業所としての役割りを伝え、安心して信頼関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前には、事業所の見学を勧めています。雰囲気や過ごし方など見ていただき、ご本人にとって必要な支援やサービスを、出来る限り取り入れて対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという事を心がけ、ご本人の訴えに共感し、その人らしいありのままの暮らしの実現に向けて、信頼関係が築けるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話などで日々の様子や気付いた事などを報告しています。また、ご本人が家族との連絡を求めた時にはすぐに連絡を取り、共に支えあえる協力関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方々の来訪はいつでも歓迎しています。外出の折には、ご本人の自宅付近を通ったり、馴染みの店での買い物や、地域行事の参加など、繋がりを大切に出来る様に支援をおこなっています。	面会に訪れる家族や知人を歓待するなど、人的繋がりを大切にしている。寺院の行事に送迎をしたり、ドライブがてら自宅や馴染みの場所を訪れるなど利用者の生活歴を共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時には職員と一緒に席に着き、利用者同士が円滑にコミュニケーションが取れるように支援している。利用者同士の関係を把握し、孤立することなく交流が図れるように、職員が調整役となっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の面会にうかがったり、ご家族からの近況報告などもあり、顔が見えるお付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、ご本人の様子やさりげない一言などを記録し、心情が理解できるように努めています。ご家族からの情報交換などをおこない、ありのままの生活が出来るように支援しています。	日々の中で得た言葉や表情、動作等を記録に残し、家族からの情報や助言を基に利用者の根底にある思いの汲み取りに努めている。得られた情報をケアサービスやケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族・知人・関係者などから積極的にアセスメントをおこなっています。分かりにくい言動にもご家族などの情報から理解に繋げ把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムを把握し、その日の体調や心理状態を見極め、今出来る事に視点を置き、自尊心が高められるように支援をしています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望等をうかがい、普段の何気ない一言やスタッフの気付き・生活の様子を視野に入れ、現状を把握し介護計画を作成しています。3～4ヶ月ごとに見直しや、変化時に即した計画を作成しています。	ケアプラン作成時は、関わりの中や個別の記録から利用者や家族の生活に対する要望を把握し、介護支援専門員を中心に全職員で協議している。定期見直しや状態変化時には適切なケアプランを心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活の様子や体調確認など個別に記録し、日々の変化の把握に努めています。ご本人の一言や職員の気付きなども明記してもらい、ケアや介護計画に役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、買い物や病院受診、ご家族の面会時に食事を提供するなど、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアやセラピー犬の慰問など、フォーマル・インフォーマルを問わず交流を図るよう努め、地域の公園などを利用し、豊かな暮らしを楽しめる事が出来るように支援をおこなっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にご家族が同行し、かかりつけ医の受診となっております。日々の様子や病状などを添書し、スムーズな受診が出来るようにしています。ご家族の都合がつかない時は職員が対応し、結果をご家族に報告しています。	家族の協力を得ながら、入居以前からのかかりつけ医や協力医への受診支援をしている。24時間連絡体制の訪問看護師による週1回の健康チェックもあり、健康状態は関係者と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護の体制を整えており、利用者の状況を伝え、適切なアドバイスを受けています。緊急の際も電話相談などの対応をする事が出来ます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書にて情報を医療機関に提出し、職員が頻回に出向き、病院側とご家族と連携を取り、退院後の支援に結び付けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	入所時に重度化した時の支援についての説明をおこなっています。終末期へのご家族への同意書を作成し、ご本人・ご家族・医療との連携を取っていきたいと思っています。職員は順次ターミナルケア研修などに参加しています。	契約時に医療体制を文書で説明し、同意を得ている。医師との連携が困難なため看取りは行っていないが最大限の支援に努めている。	終末期に向けた利用者の意向把握や重篤時に於ける環境整備、職員のさらなる知識や技術の習得を検討しているため、その取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が普通救命講習を受講しています。急変時のマニュアルを作成し、自施設研修やロールプレイなどもおこなっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署の協力を得て、運営推進会議時に避難訓練をおこない、地域への協力体制をお願いしている。普段よりの意識付けのために、日誌に災害・火災へのチェック項目を設けています。	消防署の指導や地域の協力を得て日中想定避難訓練を実施している。10月には夜間想定訓練を計画している。非常時は系列の事業所と連携体制がある。業務日誌に火災・災害チェック欄を設け職員の意識統一を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	立ち止まり目線を合わせた会話を心掛けています。利用者一人ひとりに合わせた声掛けをおこない、その人らしい尊厳のある生活が送れるように支援しています	利用者の生活歴や日常生活から得た情報を基に、個別の対応に努めている。利用者への尊厳ある対応は、内部研修やミーティング等で共通理解に繋げ支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手の気持ちや立場になって考え、一人ひとりの出来る事への支援をおこなっています。その人らしい、ありのままの生活が実現できるように心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や希望に副った、その時々のおいに対応出来るように支援をおこなっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スキンシップを図りながら、整容の支援をおこなっています。本人の意向に副って着替えていただいておりますが、困難な方には職員が判断したり、アドバイスをおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備や片付け・収穫などもおこなっています。四季折々の旬な物を提供することを心がけ、利用者の希望を献立に取り入れたり、外食に出掛ける機会をもうけています。	利用者が食事を楽しめるよう献立を作成している。調達した食材や菜園での収穫物、他からの頂き物を活用し、利用者と一緒に作ったグミやルバーブのジャム、メロンの漬け物等が食卓に並び豊かな食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録し、摂取量が確保されているか把握に努めています。体調や状況に合わせて形状を変え提供しています。食べる事は楽しみ・健康のパロメーターと考えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、個々に合わせた支援をおこなっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、表情や動作などを見ながら、さりげない声掛けをおこない、尊厳やプライドを傷つけないように配慮しています。	排泄時は、自尊心や羞恥心に配慮して支援している。出来る限りトイレでの排泄支援に取り組み、さらに、衛生用品の利用も職員間で検討し、最低限の使用になっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックをおこない、乳製品の提供や、起床時などに水分摂取の促しをおこなっています。毎日適度な運動を取り入れ、便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設定していますが、利用者の希望や状況に応じて柔軟に対応しています。個々のペースに合わせ、リラックスして入浴を楽しんでいただいています。	基本的に週2回の入浴支援を行っている。状況によっては複数介助を行い、殆どの利用者は入浴剤入りの浴槽に入って寛いでいる。入浴はコミュニケーションや身体確認の時間帯になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、個々の生活のリズムに合わせて休息していただき、夜間照明や室温などに気を配り、安眠出来ない利用者に対しては、話を聞き安心感が得られるように見守り支援をおこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬説明書をファイルに綴り、処方の変更があった時などは申し送りなどを活用し、随時情報を共有しています。服薬時は再度確認してから本人に手渡し、飲み忘れが無いかな確認をおこなっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事に視点を置き、自尊心が高められるように職員間で話し合い、一人ひとりが日々の小さな達成感を得られる事ができるように支援をおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて外出する機会をもうけています。散歩やドライブは日課となっており、敷地内のテント・近所の公園での昼食や、地域の行事・イベントなども出来るだけ参加しています。	日常的に敷地内や周辺を散歩して、菜園や花壇を楽しんでいる。外出行事を企画し、ドライブを兼ね花見などで行楽地を訪れたり外食等で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者には、買い物の時の支援をおこなっています。また、所持していない方にも、買い物の楽しさを実感していただくために、立て替えて購入するなどの対応もおこなっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、いつでも電話をかけられるようにしています。また、一緒に郵便局へ出掛け、手紙を出すなどの支援もおこなっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の整理整頓に心がけ、居心地良く過ごしていただけるように努めています。ご利用者と一緒に飾り付けなどをおこない、季節感を感じてもらえるように工夫しています。	ユニット毎に趣の違いはあるが、夏の装いの飾り付けをし季節が実感できる。清掃、採光、温湿度にも配慮があり、共用空間が、利用者にとって馴染みの人たちに囲まれた安心感ある場所になるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓スペースとソファで気の合ったご利用者同士がコミュニケーションを取れるように見守り・支援しています。家庭的な雰囲気です。ソファで横になり、居眠りをしている方もいます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前ご本人が使用していた物や、写真・仏壇などを持ち込み、安全に配慮し、利用者が居心地良く過ごせるようにしています。	居室にはベットと押し入れが設置されている。馴染みの調度品等が動線に配慮して置かれている居室には、趣味の物や写真等が飾られ、利用者の個性が表れている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっています。手摺り等も設置し、利用者の状況に応じてその都度検討しながら、安全かつ自立した生活が送れるように工夫しています。		